

＜年少～就学前の子ども向け＞

発達が気になる子どもの理解と 適切な支援の導入へ向けて

～保育園・幼稚園の保育者の皆様へ～



福岡市医師会
保育園・幼稚園保健部会

はじめに

保育園や幼稚園において「集団生活になかなか参加できない」、「気に入った課題にしか参加しない」、「落ち着きがなく話を聞いていない」、「指示が通りにくい」など、発達に遅れがあるのでは、あるいは社会性などに課題があるのではと思われるとき、本当に困っているのは子どもかもしれません。そのような場合は、園で配慮していただくだけでなく療育機関で専門的な評価や助言を受けることで、子どもにとって過ごしやすい環境の整備や保護者との共通理解をつくることができ、子どもの更なる成長へとつながっていきます。

子どもの発達障害についての関心の高まりや早期療育の大切さなどへの理解の進展に伴い、福岡市内の3か所の療育施設に紹介される新規受診者数は年々増え続けています。紹介先としては保健所、医療機関とともに保育園と幼稚園が多くを占めています。ただ、保健所でチェックできるのは3歳児健診が最後になり、3歳から就学前までの子どもにとっては保育園・幼稚園での「気づき」がとても重要になってきます。家庭生活において子どもの気になる行動は保護者には気づかれにくいようです。なかには気になって専門機関を受診する場合がありますが、気にしながらも様子を見ていたり、気にしていなかったりする保護者も多く存在しています。そのため、子どもたちが長時間にわたり集団で生活している保育園・幼稚園において、子どもの気になる行動への「気づき」がたいへん期待されています。その気づきが、療育施設での「よりの確な支援」への導入につながり、保育園・幼稚園においても子どもの特性を認めながら対応することになり、最終的に子どもの社会性を広げていくこととなります。また、家族への支援においても、療育機関だけでなく普段から家族と接している保育園・幼稚園からの働きかけがより有効なものになることもあります。

そこで、保育園・幼稚園において「気になる子ども」に早期に気づき、適切に対応するために必要と思われる情報や資料を提供するために本書を作成しました。これらを活用して、療育施設や医療機関等と連携するとともに、保育園・幼稚園内においても適切な対応をすることにより子どもの成長を促し、ひいては自立につながるように支援していただきたいと考えております。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



令和5年11月
福岡市医師会保育園・幼稚園保健部会

目次

第1章 「気になる子ども」で考えられる要因	・・・1
(1) 知的能力障害（知的能力に遅れがある）	
(2) 発達障害	
(3) 不適切な養育、その他	
第2章 保育園・幼稚園で、発達に心配のある子どもへの気づきが大切	・・・1
(1) 集団生活だからこそその気づき	
(2) 1歳半児健診や3歳児健診の情報も参考にしよう	
第3章 園で「気になる子ども」がいた場合の対応	・・・2
第4章 「幼児発達チェックシート」と「気になる行動を整理するチェックシート」 の使用について	・・・3
(1) チェックシートの目的	
(2) チェックシートと記入する際の注意事項	
(3) 「幼児発達チェックシート」の記入について	
(4) 「気になる行動を整理するチェックシート」の記入について	
(5) 検査結果を評価する際に気をつけたいこと	
(6) チェックシートをつける際の保護者への説明	
第5章 療育センターへの紹介の目安と保護者との連携	・・・6
(1) 療育センターへの紹介の目安	
(2) チェックシートを利用して保護者と連携	
(3) 療育センターの受診は保護者の気持ちを十分に尊重する	
(4) 療育センター受診の予約は保護者から	
第6章 療育センターとの連携と「連携シート」の活用	・・・7
(1) 療育センターとの連携	
(2) 「連携シート」の活用	
第7章 保育園・幼稚園へのフィードバック	・・・8
第8章 療育センターにおける療育の内容	・・・8
(1) 療育とは	
(2) 療育センターで行われる療育	
(3) 療育機関から連携先の園に提供している支援	

資料

資料1：気になるお子さんへのかかわり方〈園での工夫〜〉	・・・11
資料2：幼児発達チェックシート	・・・15
資料3：気になる行動を整理するチェックシート	・・・17
資料4：園と療育センターの連携シート	・・・20
資料5：事例紹介：ふくおかたろうくん	・・・21
資料6：記入事例：幼児発達チェックシート	・・・22
資料7：記入事例：気になる行動を整理するチェックシート	・・・24
資料8：記入事例：園と療育センターの連携シート	・・・27
資料9：療育センター案内	・・・28

第1章 「気になる子ども」で考えられる要因

気になる子どもがいる場合、知的な遅れがある、発達障害がある、不適切な養育が存在するなどの要因が考えられます。これらの要因が重なっていることもあり、それらを明確に区別してみることは難しさもあります。しかし、子どもの行動の背景にある要因を理解することは大切で、対応方法も異なってきますから、できるだけ整理して考えてみてください。

(1) 知的能力障害（知的能力に遅れがある）

教科書的には、知能は「目的を持って行動し、合理的に考え、効率的に環境と接する個人の総合的能力」と定義され、①知能指数（IQ）が $-2SD$ （70）以下である、②知的機能の遅れのため年齢相当の社会生活を送るのに困難がある、の2項目が存在する場合には知的能力障害（ID: intellectual disability）と診断されます。遅れが大きい場合は2歳頃までに見つかりますが、軽度の遅れの時には小学校に入学した後に見つかることもあります。幼稚園や保育園では、言葉が遅い身辺自立が遅い、集団の流れから外れる、制作などの保育課題などがうまくできないことなどから気がつかれたりします。

IDの有無を大まかにチェックするため、「幼児発達チェックシート<言語・コミュニケーション>、<生活と社会・運動>」を用意しました。

(2) 発達障害

社会的関係の作りにくさや言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわるなどの特徴を有する自閉スペクトラム症（ASD）、多動性・衝動性・不注意などの特徴がある注意欠如・多動性障害（ADHD）などがあります。しつけやわがままなどといわれたりしていましたが、現在は認知の偏りからの脳機能の問題とわかってきました。集団生活では指示に応じずマイペースに行動するため、日常の保育に支障がでたりします。行動の特性を整理して対応していくために、「気になる行動を整理するチェックシート」を用意しました。

(3) 不適切な養育、その他

身体的虐待やネグレクトだけでなく、家庭内にはっきりした規律などがなく家族が無秩序な生活をしている環境の子どもたちは多動や攻撃性、注意散漫などが見られます。家族の子どもへの関わりが希薄である場合にも、発達に影響が出たりします。このような家庭環境についても気をつけてみてください。

第2章 保育園・幼稚園で、発達に心配のある子どもへの気づき大切

(1) 集団生活だからこそその気づき

気になる行動は子ども中心になりがち自宅では気づかれにくく、集団生活での指示の通りにくさなどのように保育園や幼稚園だからこそ気がつくことがあります。このような集団の中で不適応をきたしやすい子どもたちにとっては、まず初めに「気づき」があることが大切です。その「気づき」が「よりの確な支援」の導入につながり、その子どもたちの理解をすすめていくことで、個性は個性として認めながらも社会性を広げていくことができるようになります。

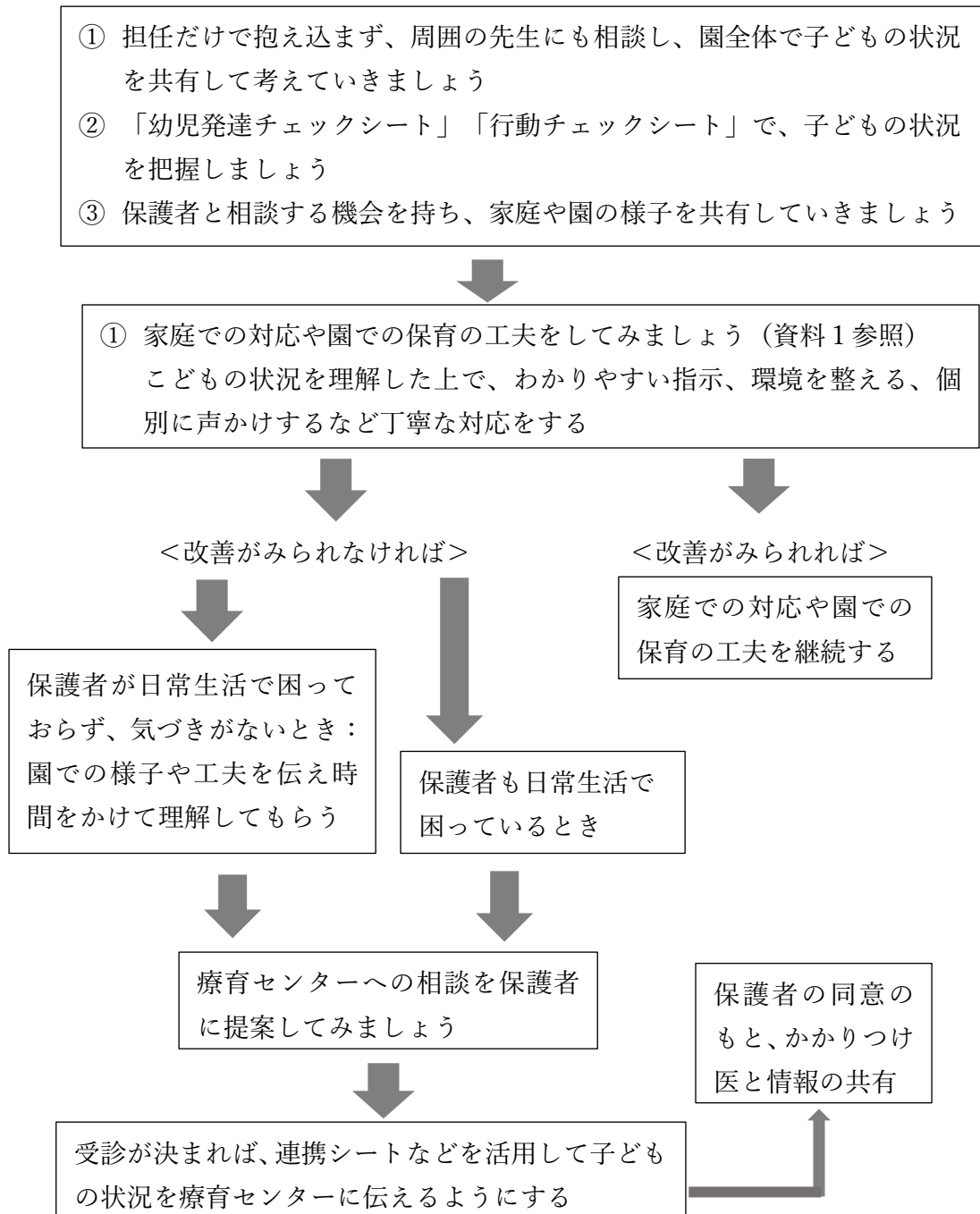
(2) 1歳半児健診や3歳児健診の情報も参考にしましょう

1歳半児健診や3歳児健診の情報も「気づき」の大きな参考になります。健診には関心を持って、受診をすませているかどうか、受診した際にはどのような状況であったか、保健所や健診医からの助言など、なるべく聞くようにしましょう。

第3章 園で「気になる子ども」がいた場合の対応

園で、気になる子どもがいた場合は、下図に示すように対応していくことをおすすめします。

集団保育の中で気になる子どもがいた場合の対応



<上図（フローチャート）の説明>

(1) 気になる子どもがいたら園全体で情報を共有して考えていきます。

- (2) 「幼児発達チェックシート」(資料2)と「気になる行動を整理するチェックシート」(資料3)で気になる点について具体的に整理します。チェックシートをつける時期あるいは保護者への説明については、第4章に記載しています。保護者の気持ちを尊重し、対応には十分留意してください。
- (3) 保護者と相談する機会を持ちましょう。問題点に留意しながら、家庭での対応や園での保育の工夫をすることで子どもの気になる行動が改善することがあります。具体的には「対応の工夫」(資料1)を参考にしてください。
- (4) 改善が見られないようなら、保護者と相談して療育センターの受診を相談します。ただ、保護者も困り感が見られない場合は、保育の工夫を行いながら保護者との連携を取っていきます。
- (5) 療育センターへは「連携シート」(資料4)等を用いて連絡してください。具体的な連携の方法については、第6章で説明しています。
- (6) 療育センターと連携をとりながら、子どもへの対応を進めていきます。
- (7) 子どもの心身の良好な発達を図るためには、療育センターとの連携だけでなく「かかりつけ医との連携」も必要になってきますので、子どもについての情報をかかりつけ医と共有するようにしましょう。

第4章 「幼児発達チェックシート」と「気になる行動を整理するチェックシート」の使用について

(1) チェックシートの目的

チェックシートは保育園・幼稚園で漠然と気になっていた子どもの問題点を整理するツールとして利用します。子どもの状態を見て「療育センターに紹介して適切な配慮をする必要がある状況か?否か?」の判断や、療育センターを紹介する場合に「保護者にどのように説明すればいいのか?」になどは悩むところです。そこで、集団生活の場で気になっている行動をよりの確に把握できるように、知的発達をおおまかに把握するための「**幼児発達チェックシート**」と気になる行動を整理・把握するための「**気になる行動を整理するチェックシート**」を作成しました。

(2) チェックシートを記入する際の注意事項

いずれのチェックシートも保育者の方々が利用しやすく、また保育園や幼稚園での生活の中から子どもの発達状況や問題行動を整理しやすいように、年齢毎の保育課題や園の中で展開される生活場面を考慮して作成しています。

チェックシートに記入する際は、日頃の子どもの様子を思い浮かべながら行ってみてください。ただ、実態を正しく把握するためには、具体的な場面、具体的な行動、そのときの対応策とその後の子どもの行動などを慎重に観察することも大切です。自分一人での把握で難しいようであれば、他の保育者からも意見を聞いて、なるべく客観的にとらえましょう。

資料5に保育の中で気になる子どもの事例を「ふくおかたろうくん」として紹介しています。このような特性を持った子どもに気がつかれた際には、ぜひ子どもさんの発達や行動を整理してみてください。「ふくおかたろうくん」をモデルとして、各記載例も作成しておりますので参考にしてください(資料6, 7, 8)

(3) 「幼児発達チェックシート」について (資料2、5、6を参照)

- 1) 発達水準を把握し、発達に遅れがあるかどうかをチェックします。
- 2) 言語・コミュニケーション・生活と社会性・運動の4領域において発達水準を把握します。
- 3) 4領域において、それぞれ一番下の項目または実年齢から1年ほど年少の項目から実年齢までの全ての項目について、「できない」、「援助したらできる」、「できる」の3段階の観点でチェックし、子どもの理解度や表現力を把握し、発達水準の理解の参考にします。
- 4) 年齢を超えてできる項目がありそうなら、さらに上の項目をチェックします。これにより、ある項目で発達水準が年齢より幼く発達の遅れがみられる一方で、他の項目では年齢より高い能力があるなど、子どもの特徴がよくわかってきます。

(4) 「気になる行動を整理するチェックシート」について (資料3,5,7を参照)

- 1) 発達障害に起因する行動特性があるかどうかをチェックします。
- 2) 気になる状態や園で起こっている困った行動についてチェックします。多動があるのか、注意力が低下しているのか、対人面に困難があるのか、どのような行動が集団の中で目立っているのか、チェックシートの項目を参考に整理します。
- 3) その行動がどのくらいの頻度でみられているかをシートに記録します。
- 4) チェックする際に、子どもの行動を再度見直してみると、ただ衝動的に動いているのか、他に関心が向いてそちらに向かって動いて行っているのか、行動の動機や興味や関心のあるものがわかり、指示の仕方の参考になります。気になる行動につながっている内容を具体的に整理することで、子どもの視線から興味・関心があるものを外して注意がそれるのを防ぎ、ひいては子どもの気持ちを落ち着かせることができます。

(5) チェックした結果を検討する際に気をつけたいこと

- 1) まず、子どもの優劣をつけるためではないことを念頭においてください。
チェックシートの記入は子どもをむやみに評価したり、優劣の判断をしたりするためのものではありません。同じ問題を有していても、子どもの個性は様々です。また、成長とともに問題点が変わることもあります。

2) 一人ひとりの子どもを幅広い視点から把握してみてください。

保育園・幼稚園には幅広い発達段階の子どもたちがいます。例えば1月～3月生まれの子どもたちは同じクラスの4、5月生まれの子どもたちより未熟な発達段階にあります。また、個人差もあり早い発達経過の子どももいれば、ややゆっくりした発達の子も、時には後戻りしているように見える子どももいます。じっくりと一定期間、その子の成長の様子を観察することも大切です。

子どもたちの成長は育ってきた環境にも影響を受けます。特に家庭環境においては、きょうだいがいるかどうか、祖父母やいとこなど多くの家族とのかかわりが多いかどうかで発達の速さは異なってきます。また複数の言語でのコミュニケーション環境の子どもなども影響を受けます。このように、様々な発達段階や家庭環境を考慮したうえで、集団生活で困っている子どもに対しては細やかな支援が必要となります。その際には、自信を失わないように達成感を与える、しっかりと居場所を園の中でも作っていくなど、一人ひとりの状況に応じて対応していくことが

必要です。

3) 得意なこと、よい面にも目を向けましょう。

問題となる行動、できないことばかりに気をとられがちになりますが、子どもの得意なこと、よい面をとらえることも大切です。幼児発達チェックシートで大まかに子どもの発達課題を評価する際には発達状況を知るだけでなく、得意なことやよい面にもきちんと目をとめてください。よい点を認め褒めることは子どもとの関係が良好になるなど、子どもへの支援を考えるための有効な手がかりになります。

(6) チェックシートをつける際の保護者への説明

子どもの状態の改善のためには家族の理解と適切な対応がきわめて重要になりますので、できるだけ保護者にもチェックシートの内容を理解してもらうことが大切です。保護者には、入園時等の機会を利用して、前もって「子どもはいろいろな個性を持っています。それぞれに適した保育を行うため、子どもの発達や行動が気になった際には、チェックシートで状況を把握するようにしています」ということを説明し、園においてチェックシートを利用することがあることについて理解してもらっておく方が良いでしょう。ただ、実際にチェックシートをつける際は、保護者が事前の説明や子どもの状態をどのように理解しているかによって対応は異なってきます。具体的には、以下のような対応方法が考えられますので、参考にしながら園の中で十分に検討のうえで対応してください。

1) 保護者が「子どもの状態への気づきがない」、または保護者に「子どもの状態を伝えてもなかなか理解してもらえない」状況だが、園では子どもへの対応をすすめていきたい場合

まず、園でチェックシートをつけて子どもの状況をチェックして課題を整理し、参考にしながら園での対応や工夫を行ってみてください。その間に、保護者との信頼関係を築きながら、子どもへの理解に合わせて少しずつ発達の課題や園で行った対応などを知らせ、実際の状況への理解を徐々にすすめていきます。チェックシートの結果については、保護者の理解度に合わせて以下のような例文を参考に説明してみてください。

「保護者の方にとって子どもの成長を見ることは楽しいことではと思いますが、なかなか思うようにはいかずお困りのこともおありのことと思います。また、困りごとは家庭内の小さな集団よりも保育園や幼稚園のような大きな集団の方がよりはっきりと見えてくることがよくあります。子どもはいろいろな個性を持っていますので、当園ではそれぞれに適した保育を行うようにしています。そのため、子どもの発達や行動が気になった際には、チェックシートで状況を把握するようにしています。チェックシートについては、子どもの発達に精通されている小児科医の先生から、ぼんやりとした困りごとや保育に参加できない様子があればきちんと整理した方が、子どもの発育へのサポートや子どもにあった保育にとって大きな参考になりますよとの助言があり、困りごとを具体的に整理するためのチェックシートの使用を勧められています。」

その上で、チェックシートで把握できた発達状況や保育で工夫していることを説明し、家族と一緒に子どもへの対応方法を相談する、あるいはセンターへの受診をすすめる際に役に立ててください。

2) 保護者が「子どもの状態に気づきや不安があり、園との信頼関係ができています」場合

保護者の了解の上でチェックシートをつけ、その結果を両者で評価して対応をすすめます。保護者へ説明する際には、上記の例文を参考に説明した上で、「チェックシートをつけてみたいと思いますが、ご同意いただけますか?」と相談し、同意のもと一緒にチェックシートで問題点を確認してみてください。課題を共有していくことでよりよい改善が期待できます。

療育センターなどの受診後、それぞれの子どもに合った保育課題を検討、園での工夫を保護者と相談するときなどにもチェックシートは利用できます。

第5章 療育センターへの紹介の目安と保護者との連携

(1) 療育センターへの紹介の目安

「幼児発達チェックシート」で年齢と発達状況に大きな差がみられている時、または「気になる行動を整理するチェックシート」において複数の困った行動がかなりの頻度でみられ、対応に困っている時には、保護者に話して療育センターに相談するようにします。

(2) チェックシートを利用した保護者との連携

保護者によっては、園での子どもの様子を率直に伝えにくい、理解してもらいにくい場合があります。ただ、保育園・幼稚園で手がかかっている子どもにおいては、保護者もまた家庭で「何度注意をしても同じことを繰り返す」、「他の子どもはできるのにできない」といった育児の悩みを持っている場合がよくあります。そのような場合にはチェックシートを通して悩みごとを整理することで園と保護者が共通の理解ができ、一緒に対応を考えていけるようになってきます。

(3) 療育センターの受診は保護者の気持ちを十分に尊重する

療育センターで診療を受けることが望ましいと判断した場合、保護者に受け入れてもらいやすくするためにはどのような声かけをすればいいのでしょうか。そのような場合は次のような声かけをしてみても如何でしょうか。「園でも子どもさんのよりよい発達を促していきたいと思っていますので」、あるいは「私たちもよりよい発達ができる方法を保護者の方と一緒に考えていきたいと思っていますので」といった言葉を添えて「子どもさんのこれからの将来を考えるうえで専門機関で相談をした方が安心ですよ」、「子育ての助言を聞いてみましょう」などの声掛けで保護者の方も安心することが多いようです。

また、園医の健診の際にも相談してみてください。担任からの意見だけでなく、医師からも「この子の将来を考えたら療育センターを一度受診した方がいいね」などの意見をもらえれば、保護者も受診を前向きに考えるきっかけになるかもしれません。

療育センターを受診しても必ずしも診断名がすぐに告げられるわけではありません。診断名がつくことは子どもの状態を理解でき、その子に合った対応ができるようになり、子どもにとっては貴重な情報となります。一方で診断をつけることには慎重な判断が必要で、専門機関においても、時間をかけて様々な情報を統合して行っています。ただ、保護者の中には診断名をつけられることを避けたいという気持ちの方たちもあり、保護者の気持ちを大切にしながら、適切と思われる時期にお伝えしていきます。

(4) 療育センター受診の予約は保護者から

保護者が療育センターに相談をしたいという気持ちになった場合、居住地を担当している「療育センター相談係」に保護者から電話して、予約を取ってもらいます。その際には、心配事の内容や、園での状況、自宅での様子などを聴取いたします。その後発達相談員や医師の診察枠を案内し、保護者のご都合にあう予約日がまきます。

※現時点では、予約してから診察までに一定の待機期間が生じていますが、年長児など就学まで時間がない、あるいは保護者の不安が強く急いでいる場合、園での対応にたいへん困っている場合には、できる限り早期の受診で対応しておりますので、その旨お知らせください。

第6章 療育センターとの連携と連携シートの活用

(1) 療育センターとの連携

「保育園・幼稚園という子どもの生活の場」と「療育センターという専門的な発達支援の場」がしっかり連携をとりながら、子どもの発達特性にあった環境を作り出し、安心できる居場所を提供していくことはたいへん大切なことです。また、保護者に集団の場での子どもの姿を理解してもらうこともたいへん重要です。

療育センターを初診される際、療育センターは子どもの情報を十分に持っていません。初診時に、園での集団生活における子どもの様子や保護者の理解度を把握できていると、診療が子どもの実態に沿ったものになります。また、園から療育センターへの要望として「集団生活での様子を把握してもらったうえで診察をしてほしい」、「現場に添った助言が早くほしい」などがあります。そのような双方向の連携を取るため、園からの療育センターへの情報提供はたいへん重要になります。

情報提供をする際は、保護者に「園でのお子さんの状況を知らせることは療育センターでの診察にたいへん役立ちますので、園での状況をお伝えしておきますね」などと説明し、できるだけ理解を得るようにしてください。理解が難しいときには、訪問支援保育士が来園した際、あるいは電話で情報提供していただいても結構です。

(2) 「連携シート」の活用

諸々の情報を整理して療育センターに提供するため、できるだけ連携シート（資料4、8を参照）を活用してください。乳幼児健診の情報や園医のコメント、子どもの具体的な様子、保護者の受け止め方、「幼児発達チェックシート」、「気になる行動を整理するチェックシート」などの園で把握された情報がわかると療育センターでの診察の大きな手助けになります。

連携シートには、いろいろな項目がありますが、全てを過不足なく記載する必要はありません。園において把握できている範囲で記載してください。

- ・1歳半時健診や3歳児健診、園医のコメントについてはわかっている範囲で記載してください。
- ・保護者の子どもについての認識やセンター受診への気持ちは大切な情報になります。面談等においてスタッフの方がどのような印象を持っているのか、適合する番号に○をつけてください。その他、保護者についての情報があれば記載してください。
- ・「幼児発達チェックシート」や「気になる行動のチェックシート」は園生活での発達をよくあら

わす内容ですので、コピーを添付してくださるとたいへん参考になります。特に気が付いたことがあれば記載してください。

・自由記載欄には、子どもの気になる行動や対応で気が付いたこと、工夫してもうまくいかなかったりしたことなどをご自由に記載ください。記載欄が不足した場合は別紙に記載して添付してください。

・かかりつけ医や相談機関からの情報があれば記載してください。

・最後に、園からセンターへの要望があれば記載してください。

第7章 幼稚園・保育園へのフィードバック

紹介された子どもの診療情報については、保護者の了解の上で療育センターの担当発達相談員から、園の担任や主任の方に電話でご連絡いたします。初診時には不確実なところも多々ありますので文書での連絡は行っていません。

保護者への診療の内容の説明については、時には初診時に診断名が判明して伝えることもありますが、多くの場合は診断名が明確にはならず、子どもの行動や発達特性を観察しながら、保護者の気持ちや子どもへの理解の進み具合を考慮しながら慎重に伝えていきます。

園からは、保護者に早く診断名を伝えてほしいとの要望もありますが、発達特性への気づきの乏しい段階で伝えても保護者は不安になるだけで気づきや支援にはつながりません。時間をかけて説明する必要がある保護者もいます。ただ、診断は明確にならなくても、療育センターでの診療や発達相談の場では、保護者に発達状況や発達の特性、課題、今後のかかわり方などを伝えていきます。園の担任や主任の方にも同様の情報を提供し、園でも子どもの発達段階や発達特性に応じたかかわり方や様々な工夫が行えるように、保護者の様子や理解の状況がわかるようにしています。また、受診後においても園での集団生活で対応に困ったり迷うようなことがあれば療育センターの担当発達相談員へ連絡してください。子どものよりよい成長に向けて、療育センターと園と協力して進めていくことが大切です。

第8章 療育センターにおける療育の内容

保育園や幼稚園のスタッフの方が療育センターについての理解を深めていくことは、園における対応を適切にするとともに、保護者の方へ適切な説明をしていただくためにも必要です。

(1) 「療育」とは

療育とは、「医療」と「育成」を統合した用語で、子どもと家族が地域でいきいきと生活していくことを支援し、自立した大人に成長することへの努力のすべてをいいます。

具体的な療育は、以下の取り組みを通じて、子どもの成長を促していくことです。

- ・子どもにとって役立つ・できる課題を経験することで達成感や成功感を育む。
- ・子どもの自立を支えていくことで自信をもち、自己選択や自己決定ができるようになる。
- ・子どもが多くの経験を重ね、様々な環境ですごせるようにすることで適応力の拡大をめざす。
- ・家族等への育児支援や環境の調整を通じて、療育を生活の場に汎化させる。

療育には、小児科医、児童精神科医、発達相談員、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、児童

指導員、保育士、ケースワーカー、相談支援専門員などさまざまなスタッフがかかわっていきます。

(2) 療育センターで行われる療育

療育センターを受診しますと、子どもの発達や行動の評価を行い、小児科医の診察を受けた後に、それぞれの家庭の子どもへの理解度や事情を充分把握した上で、保護者の気持ちを尊重しながら各々の子どもに適合した下記のような療育を提案することになります。

1) 児童発達支援センターによる通園療育

3歳未満の児は10時～14時にかけて親子で週に1～2日、3歳以上の児は10時～15時にかけて単独で毎日通園します。食事、更衣動作、排泄などのADL指導を自立状況に応じてうけながら、発達段階に合わせた保育、コミュニケーション指導などを受けます。統合保育が適切な段階になったら、保育園や幼稚園で経験することを提案しています。

2) 児童発達支援センターや児童発達支援事業所による外来療育

保育園・幼稚園に通いながら、並行して週に1回～月に1回の療育を受けます。

- ・ グループ療育：発達段階や課題にあわせて少人数のグループで行います。
- ・ 個別療育：一人ひとりにあわせて、ソーシャルスキルトレーニングやコミュニケーション支援、作業療法などが行われます。

3) 経過観察

発達が保育園・幼稚園で十分に成長が見込める場合、ご家庭の発達状況事情で定期的に療育に通えない場合などは、担当発達相談員による面接を通じて、ご家庭や園での対応に関する相談、発達のフォローアップが行われています。

4) 保護者支援

診察、心理面談、保護者勉強会などを通して、子どもたちの発達状況の理解や対応方法、進路などを一緒に考えていきます。ご家庭の療育参加に関する環境調整の相談や福祉制度に関しては、ケースワーカーがご相談に応じています。

(3) 療育機関から連携先の園に提供している支援

1) 電話相談による連携

保護者の了承の元、在籍している保育園・幼稚園に子どもの発達状況や特性を伝え、必要な支援を一緒に考えます。

2) 訪問支援

訪問支援保育士が、気になる子どもの在籍している保育園・幼稚園に出向き、直接対象児のクラスに入り、子どもへの関わり方、保育の工夫、環境調整などを園のスタッフの方々と一緒に考えていきます。

※福岡市では、認可保育園に対して特別支援保育（さぼ～と保育）制度を設けています。

詳しくお知りになりたい場合は、福岡市子育て支援部保育支援課にお問い合わせください。

3) 研修会の開催

発達特性の理解や対応の工夫、支援を必要とする子どもを含めたクラス運営の方法、また個別に特別の支援を必要としている子どもについてなど、保育園・幼稚園全体でスタッフの方々の理解を図るため、訪問支援保育士が園の職員の方々に園内研修を行っています。

なお、療育に携わっている保育士、作業療法士、言語聴覚士、小児科医がそれぞれの立場か

ら、市主催の保育士研修、幼稚園連盟主催のインクルーシブ研修等において、専門的な講義を行っています。

※療育センターは地域ごとに設置されています。受診の流れに関しては資料9をご参照ください。令和7年4月に南部療育センター（福岡市博多区三筑二丁目15-40）が開設予定です。開設後は、各療育センターの担当地域に変更がある場合もあります。

気になるお子さんへのかかわり方<園での対応の工夫>

園の中で、他の子どもたちと同じように行動できない子どもがいたときは、保育の中でいくつかサポートの工夫をしてみましょう。ここでは、そのポイントを紹介します。

1. 丁寧に観察する

子どもの気になる行動には必ず理由があります。例えば、あつまり中に保育室から出ていく子どもの場合、どんな状況のときに保育室から出ていくのか？そのきっかけを観察してみましょう。友だちの大声を聞くのが辛いとか、他のクラスの子どもたちが外に出ていく様子を見たとか、あつまりで読んでいる絵本に興味がないとか、その子どもなりの理由があります。

子どもの行動の理由がわかると、保育者も子どもに対する対応が見えてきます。

例えば、大声を聞くことが辛い子どもには、子ども同士の距離を遠ざけるとか、外に出ていく子どもを見ると行きたくなくなってしまう子どもには外に出ていく様子が見えない座席配置にするとか、興味のない絵本を読み聞かせるときは保育室のコーナーで別の絵本を見ていいような配慮をするとか、原因に合わせたサポートの手立てが考えられます。

2. 見ることの強みを活かす

人は視覚から 80%の情報を得ていると言われていますが、発達障害がある子どもたちは、耳で聞いたことよりも目で見ることの方が理解しやすい傾向があります。知的障害の子どもにとっても言葉かけに加えてジェスチャーや実物、絵カードなど目で見てわかる情報があると理解しやすくなります。

3歳以上児の集団保育では、保育者が子どもたちに一斉指示を出す場面が多くなりますが、発達の遅れやばらつきがある子どもたちは定型発達の子どものように「繰り返し言って聞かせればわかる」わけではありません。

実物、絵や写真などを使って目に見える形にして伝える方が、理解しやすくなります。まずは「言って聞かせる保育」から「見せて伝える保育」に切り替えてみましょう。

① 見通しを伝える

絵や写真カードを使って「どこで」「何をするか」を伝えます。

提示するものは、子どもの理解力に合わせて、実物、絵、シンボル、写真など、その子が「わかる」ものにすることが大切です。



② 手順を伝える

着替えや手洗いなど、複数の動作を伝えるときには「手順カード」を使用してみましょう。

「手順書」があると保育者が声かけしなくても自分から行動することができていきます。

*「手順カード」は子どもの理解力に合わせた枚数にします。子どもの発達がゆっくりの場合は1、2枚から始める方が伝わりやすいです。



③ 時間の経過を伝える

園の生活は保育者が管理していて、子どもにとっては「何がいつ始まり、いつ終わるのか、次の活動はなにか」が漠然として捉えにくいものです。ですので、1日の活動を絵や写真を使ったスケジュール表にして視覚化して知らせることで、子どもは見通しをもって過ごすことができます。

子どもにとって見たくなる要素が入っていることが大切です。「〇〇したら△△できるよ」と励みになるスケジュールにしていけることがコツです。



④ 環境を整える

見ることに強みがあるということは裏を返すと、見ることに影響されやすいことでもあります。気が散りやすい子どもに朝の準備や着替え、課題などに集中させたい場合は、子どもが集中できる環境を整えることが大切です。

図1は保育室で朝の準備をするときに、入口側にコーナーを作り、仕切りで玩具が見えないようにしています。図2は着替えに集中できるようにブースを作っている写真です。

自分がすべきことだけが見えると子どもたちは集中して取り組むことが増えてきます。



図1 朝の準備コーナー



図2 着替えコーナー

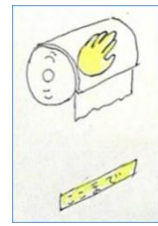
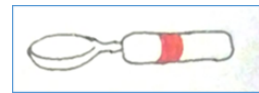
⑤ 手がかりを目立たせる

子どもが適切な行動ができるように、道具に目印を付けたり、立つ位置がわかるようにします。

例えば、手洗い台の前に足形を付けて並ぶ場所を目立たせることや、スプーンを持つ位置や上靴の左右、トイレトペーパーの長さを教えることができます。こういった支援は、ルールを自分で考える、思い出す、など精神的な自立にもつながります。



*視覚支援を活用するときは、事前に見せる物やカードなどの準備が必要です。子どもが見て理解できることが大事です。それが子どもにとってわかりづらいものでしたら、その子に合ったものに作り替える必要があります。



3. わかりやすい指示の出し方

一斉指示では伝わらない子どもの場合、個別に声をかけて指示をしてみてください。わかりやすく伝えるには3つポイントがあります。

① 個別の声かけ 【おだやかに、すこし近づいて、しずかに】

保育室はいつも多くの子どもたちの動きや声でざわざわしています。ですので、保育者の指示は子どもと距離が離れていると大声になりがちです。子どもに近づくことで自然と静かにおだやかに伝えやすくなります。保育者が個別に指示をすることで子どもも自分に声をかけられたことを意識できます。

② 指示は一度に一つの内容で、簡潔に

4歳児以上になると、一度に3つ程度の指示を聞いて行動できる子どもが増えてきますが、そうした指示では行動できない子どもの場合は、理解力に合わせて短い文（単語や二語文程度）で伝えましょう。

「はさみを道具箱に片付けてから、帽子をかぶって外に行きましょう」では、最後の「外に行きましょう」しかわからない子どももいます。

「はさみを片付けます」、「帽子をかぶります」、「外に行きましょう」と内容を分けて伝えることで、子どもは理解して行動することができます。さらに、前段の“見て理解する強み”を活かし、身振りを交えながら伝えるといいでしょう。

③ 「肯定的、具体的」に伝える

保育者は子どもに対して「廊下は歩く」、「おもちゃは片付ける」、「順番を守る」などの行動を期待しますが、こうした行動を子どもたちが取れないときには「廊下は走らないで」、「おもちゃ投げないで」など否定的な言い方になりがちです。

しかし、発達障害の傾向がある子どもは否定的な表現の意味を推し量って適切な行動をとることが難しいと言われています。また、「～ダメ」、「～しないで」といった否定的な表現に敏感になり、「行動」ではなく「自分」を否定されたと感じがちです。

そこで、声かけをするときには「～します」という肯定的な表現で伝えましょう。例えば、すべり台の順番待ちに割り込んできた場面では「いけない」というのではなく、「○○くん

の後ろに並ぼうね」と肯定的、具体的に伝えてください。肯定的な声かけは子どものやるべき行動そのものです。

肯定的、具体的に伝えるためにも目印を付けてわかりやすい環境を作ることは大切です。

「足型のところで待とうね」「スプーンの赤いところを握ろう」など具体的な伝え方ができます。

4. ほめる、認める

3歳以上児になると一人でできることが増えてくるため、大人からほめられることが増え、子ども自身が達成感を感じ、それが自信につながっていきます。

一方、落ち着きがない、集団の中で外れた行動をとるといった子どもたちは、家庭でも園でも注意されることが多く、ほめられることが少なくなりがちです。しかし、そうした対応を続けても子どもの困った行動は減っていきません。

保護者や園からは「子どものできないこと、苦手なことはどうすればできるようになりますか?」という質問を受けますが、まずはできることや得意なことをほめたり認めたりして伸ばしていくという視点が大切です。

周囲の大人からほめられた、認められたと感じることで、子どもは「できた」という成功体験をもつことができます。そして、得意なことやできることを増やしていく中で、自分に自信がもて、少し苦手なことにもチャレンジしていこうという気持ちが育ちます。こういった非認知能力を育む働きかけは保育所保育指針や幼稚園教育要領にも記載されており、どの子どもにとっても有効かつ重要です。

子どものできないこと、苦手なことはいったん棚上げして「あたりまえのこと、できること、得意なこと」に注目してほめていきましょう。子どもは安心と自信の中で成長していきます。



幼児発達チェックシート <言語・コミュニケーション>

幼稚園・保育園職員専用

対象児氏名 () 生年月日 (年 月 日) 性別 (男・女)
 チェック年月日 (年 月 日) チェック年齢 (歳 月)
 園 名 () 記載者 () 対象児との関係 ()

年齢	言語（発語・理解）				コミュニケーション（やりとり）			
	項目	評価			項目	評価		
		○	△	×		○	△	×
7:0	自分の名前をひらがなで書くことができる				友だちが困っていたら助けようとするができる			
	簡単な文字を読むことができる				相手の意見を聞いて、お互いの意見を調整できる			
6:6	必要に応じて、電話で話せる				自分の好きな友だちを誘って、すすんで遊ぶことができる			
	10くらいの数の概念が確立している				相手の立場を考えて行動したり、譲ったりできる			
6:0	「もし～したらどうなりますか？」の仮定の質問に答えることができる				物語の一部を自分で演じたり、人形に演じさせたりすることができる			
	なぞなぞ遊びがわかる				他の子どもにゲームや遊びのルールを説明することができる			
5:6	「左手」「左の眼」「右の耳」はどこと聞かれてもわかる				楽しい、好き、怒っているなど、自分の感情をことばで表すことができる			
	しりとりあそびができる				みんなの前で歌ったり、踊ったりすることができる			
5:0	反対語がわかり使うことができる				自発的に友だちに「ごめんなさい」を言うことができる			
	右、左がわかる				知らない大人にあいさつしたり、簡単な質問に答えたりすることができる			
4:6	受身文を理解して話すことができる(犬にかまれた)など				人のものを使うとき、許可を求める態度を示したり、ことばで示したりできる			
	きのう、きょう、あしたのことばがわかる				助けが必要なときに近くにいる人に頼む(トイレに行きたい、水が飲みたい)ことができる			
4:0	三語文程度の文を真似して言える				遊びの中で、順番が分かり、待つことができる			
	「なに」「どうして」など質問をしてくる				遊びの中で適切なことば(貸して、ちょうだい、取って、ありがとうなど)を使うことができる			
3:6	高い・低いがわかる				友だちと順番に物を使うことができる(ブランコなど)			
	赤、青、黄、緑など複数の色がわかる				「こうしていい？」と許可を求めることができる			
3:0	大きい、小さい、長い、短いがわかる				ままごと遊び、ごっこ遊びができる			
	自分の名前を言うことができる				友だちとけんかすると言いつけに来る			
2:6	紙を切るもの(はさみ)、水を飲むもの(コップ)などの問いに応じる				おもちゃなどを貸してほしいとき、相手に伝えることができる			
	二語文程度の簡単な文(パパ、かいしゃなど)が話せる				遊んだおもちゃを箱に片付けるなど、指示されたことができる			
2:0								

幼児発達チェックシート <生活と社会性・運動>

保育園・幼稚園職員専用

対象児氏名 () 生年月日 (年 月 日) 性別 (男・女)
 チェック年月日 (年 月 日) チェック年齢 (歳 月)
 園 名 () 記載者 () 対象児との関係 ()

年齢	生活と社会性			運動				
	項目	評価			項目	評価		
○		△	×	○		△	×	
7:0	曜日が分かり、一日、一週間の予定がわかる				あやとり、コマ回しなど、細かな作業ができる			
6:6	公共の場所で人に迷惑をかけないで行動することができる				きちんと角のある三角形、正方形、菱形を描くことができる			
	はだかであることを気にして恥ずかしがる				縄跳びができる			
6:0	自分で、出かける準備ができるようになる				ジャングルジムに登ることができる。			
	したいこと、欲しい物を我慢するようになる				行進、スキップ、ギャロップなどをリズムに合わせてできる			
5:6	小さい子のめんどうをみることができる				タオルやぞうきんをしぼることができる			
	信号を見てきちんと道路を渡ることができる				人の絵がかける			
5:0	じゃんけんで勝ち負けがわかる				菱形と十字形をはみ出さずになぞることができる			
	2～3人の子どもと協力して一つの山を一緒に作って遊ぶことができる				ブランコにのって2～3回こぐことができる			
4:6	他人が嫌がることを人の前ではしない				点線で描かれている絵をクレヨンでなぞることができる			
	箸を使って食べることができる				スキップができる			
4:0	公共の場でしてはいけないこと（さわがない）などのマナーを意識することができる				はさみで紙を線に沿ってきることができる			
	鼻をかむことができる				おぼんにお皿や茶碗をのせて運ぶことができる			
3:6	頼むと食器をかたづけることができる				ぼたんをはめることができる			
	上着を自分で脱ぐことができる				折り紙などにノリを付けてはることができる			
3:0	一人でトイレに行くことができる				「ヨーイドン」の合図を聞いて、走り出すことができる			
	箸やフォークで刺して食べることができる				ハサミを使って、紙を切ることができる			
2:6	自分で手を洗ってタオルで拭くことができる				手すりをもって階段を昇り降りすることができる			
	歯をみがくまねなど日常の生活動作を再現できる				まねて○を描こうとする			
2:0	ほとんどこぼさずに食べられる				両足でぴよんぴよんジャンプできる			

気になる行動を整理するチェックシート ①

保育園、幼稚園職員用

対象児氏名 () 生年月日 (年 月 日) 性別 (男 ・ 女)
 チェック年月日 (年 月 日) チェック年齢 (歳 月)
 園 名 () 記載者 ()
 対象児との関係 ()

1. 多動性 (過活動)

不適応の状態		不適応の例	なし	時々	よくある
(1)	そわそわしている	・座っていて手足を動かす, 身体をクネクネさせる ・髪いじり・爪かみ・指しゃぶり等がある			
(2)	離席する	・一斉保育や食事中にすぐに席を離れる ・教室から飛び出してどこかに行ってしまう			
(3)	興奮する	・異様にはしゃぐことが多い ・集会の場で走り回る, 高いところによじ登ったり飛び降りたりする			
(4)	騒がしい	・遊んでいても騒がしく周りに迷惑をかける ・静かに本読み等ができない ・見知らぬ人にも声をかけて不快感を与える			
(5)	休みなく動き回る	・じっとしていない ・予想のつかないことをしてしまう ・目的の場所にいらないことが多い			
(6)	必要以上のおしゃべり	・遠慮すべきところでも, 自分のペースで不適切なほどに過剰にしゃべる ・教師の説明の途中や友だちの発言中もしゃべる			

2. 衝動性

不適応の状態		不適応の例	なし	時々	よくある
(1)	話を最後まで聞けない	・話が終わらないうちに出し抜けて答えてしまう ・当てられないのに答えを言う ・待てずに自分の聞きたいことをすぐに聞く			
(2)	順番を待てない	・列に並んで待てない, いつも一番になりたがり, 反則をしてでも勝とうとする ・ルールを守れず周りとのトラブルが多い			
(3)	協調性が乏しい	・友だちの邪魔をする ・友だちの会話やゲームに割り込む ・気に入らないと押したり, たたいたりする			

3. 不注意

不適応の状態		不適応の例	なし	時々	よくある
(1)	注意を払えない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲をみていない ・ 何度伝えても同じミスを繰り返す ・ 慎重にすべきところで丁寧に行わない 			
(2)	集中力を持続できない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好きなことには極端に没頭するが、興味のないことには注意集中時間がごく短い 			
(3)	話を聞いていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話しかけても聞いていない ・ 集団の中で話をきちんと聞けない ・ 違うことをして話を聞いていない 			
(4)	課題を避ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味のない課題はしない、さける ・ 難しい課題はすぐにあきらめてしない ・ 給食の後片づけ等の決まった課題を嫌がる 			
(5)	ものをなくす	<ul style="list-style-type: none"> ・ クレヨン・鉛筆・本・傘などをなくす ・ 何をどこに置いたかわからなくなる ・ 探している物が側にあっても目に入らない 			
(6)	気が散る	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっとした物音でもすぐに気が散る ・ 話し声や騒音等に過剰に敏感である 			
(7)	物忘れをする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯磨きや手洗い等の毎日の日課でも忘れる ・ 園であったことや直前のことを忘れる 			

4. 対人コミュニケーション

	不適応の状態	なし	時々	よくある
人への反 応や か か わ り の 乏 し さ	目と目で合図をする、身振りを使うなど非言語的な行動が少ない			
	友だちと仲よくしたいという気持ちはあるけれど、友だち関係をうまく築けない			
	友だちのそばにはいることもあるが、主に一人で遊んでいる			
	仲のよい友だちがいない、または特定の友だちに固執する			
	ゲームをするとき、仲間と協力することに考えが及ばない。自分のペースやルールですすめる。			
	いろいろなことを話す、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しない。周囲が困惑することも平気で言う。			
	共感性が乏しく、場の理解が悪い。場にそぐわない行動をする。			
こ と ば の 発 達 の 遅 れ	話しことばの遅れがあり、身振りなどでも補おうとしない			
	ことばを組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る			
	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある			
	独り言、オウム返しなどがあり、言葉のキャッチボールができない			
	主客が転倒する。			

気になる行動を整理するチェックシート ③

保育園、幼稚園職員用

5. こだわり、その他

	不応の状態	なし	時々	よくある
興味や関心が狭く特定のものにこだわること	ゲームや順番などでの勝ちや一番へこだわる			
	初めて経験することへの抵抗が大きい			
	空想の世界（ファンタジー）に遊ぶことがあり、現実との切り替えが難しい場合がある			
	特定の分野の知識のみ極端に多い			
	とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある			
	特定の物、遊具、マーク、色などに執着がある（電車、車、昆虫など）			
	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある			
	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる			
	意図的でなく、顔や体を動かすことがある 例：手や指をぱたぱたさせる			
その他の特徴	独特な声で話したり独特な目の使い方をする			
	独特な感覚（大きな音、お面を怖がる、砂遊び、水遊びをいやがるなど）			
	食事（偏食など）排泄、睡眠などの生活習慣の遅れや乱れ			
	初めての場所や初めての経験を嫌がる			
	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある			
全般的なこと	社会生活や園生活に不応が認められる			

< 連携シート >

年 月 日 作成

氏名	性別	男・女	生年月日	年 月 日	歳 月
園名	記録者(児との関係)		()		
健診からの情報	1歳半児健診： 3歳児健診： 園での健診（園医のコメントを含めて）				
保護者の認識 受診への気持ち その他	1. よく理解している 2. ある程度理解している 3. あまり理解していない 1. 強く希望している 2. ある程度希望している 3. あまり希望していない ()				
幼児発達 チェック	チェック日： 年 月 日（できればチェックシートのコピーを添付してください） 気が付いたことがあれば：				
気になる行動の チェック	チェック日： 年 月 日（できればチェックシートのコピーを添付してください） 気が付いたことがあれば：				
子どもの実態に ついての自由 記載欄 (課題・対応や 効果など)	言語について：				
	対人関係・集団生活への適応などについて：				
	身体面（生活リズム、食事、排せつ、更衣など）について：				
	運動面について：				
	その他（家族環境など）：				
かかりつけ医 からの情報	1. なし 2. あり（病医院名：) あれば具体的にご記載ください				
相談機関 からの情報	1. なし 2. あり（機関名：) あれば具体的にご記載ください				
センターへの 要望	1. なし 2. あればご記載ください				

※記載できるところを埋めるだけで構いません。自由にご記載ください。

※記載欄が不足した場合は別紙に記載して添付してください。

事例 ふくおか たろう くん

年中（4歳児クラス）男子（5歳4か月）

両親と本人合わせて3人家族

母親の職場復帰に伴い、年少から入園。なかなか母子分離ができず、泣かずに登園するまで時間がかかった。入園後しばらくしてから、集団に馴染まない様子がみられ、気になっていた。年中になり、周囲との違いが顕著になり、一斉指導ではうまく保育にのれない事も多くなった。

<保育状況>

自分の名前を言うことや大人の言った三語文をまねして復唱することはできますが、独り言が多く、自分の気持ちや要求を言葉で相手に伝えることはできません。保育者の一斉指示では内容を理解していないことが多く、個別の声かけが必要です。一方で、絵カードを見せて指示を出すと、クラス全体への指示でも伝わるがありました。

色名の理解や「大小、高低」等の比較はできますが、「昨日、今日、明日」の概念理解や左右の区別は難しいです。

自由遊びでは、砂遊びが好きでスコップを使い30分くらい集中して遊んでいます。友だちのそばにいて遊ぶこともありますが、主には一人遊びをしています。「かして」「ちょうだい」と言葉で伝えることができず、友だちの持っている玩具を取ろうとすることがよくあります。玩具が手に入れられないと、相手をたたくことも時々みられます。

制作課題への興味・関心が薄く、特にハサミや糊を使った制作のときは保育者が毎回手を取って要領を教えています。課題にはすぐに飽きて離席します。注意されると着席しますが、課題には取り組もうとしません。

身辺処理はほぼ自立しており、トイレに一人でいくことやボタンを留めること、箸で食事することはできます。よそ見をしていることが多く、ボタンを段違いに留めることや、脱いだ服をどこに置いたかわからないことがあります。持ち物の片付けも忘れがちです。

また、偏食があり、白いご飯や揚げ物以外は食べません。

高い所に登ることは得意で、園庭ではジャングルジムに登って遊んでいます。しかし、スキップのようにリズムに合わせる動作は難しいため、リズム遊びに参加することをしぶりがちで、時々保育室から出ていきます。

事例

幼児発達チェックシート <言語・コミュニケーション>

保育園・幼稚園職員専用

対象児氏名 (ふくおか たろう)

生年月日 (H 30年 5月 3日) 性別 (男)・女)

チェック年月日 (R 5年 10月 1日) チェック年齢 (5歳 4月)

園名 (〇〇保育園)

記載者 (博多 花子)

対象児との関係 (担任)

年齢	言語 (発語・理解)				コミュニケーション (やりとり)			
	項目	評価			項目	評価		
		○	△	×		○	△	×
7:0	自分の名前をひらがなで書くことができる				友だちが困っていたら助けようとするができる			
	簡単な文字を読むことができる				相手の意見を聞いて、お互いの意見を調整できる			
6:6	必要に応じて、電話で話せる				自分の好きな友だちを誘って、すすんで遊ぶことができる			
	10くらいの数の概念が確立している				相手の立場を考えて行動したり、譲ったりできる			
6:0	「もし～したらどうなりますか?」の仮定の質問に答えることができる				物語の一部を自分で演じたり、人形に演じさせたりすることができる			
	なぜぞ遊びがわかる				他の子どもにゲームや遊びのルールを説明することができる			
5:6	「左手」「左の眼」「右の耳」はどこで聞かれてもわかる				楽しい、好き、怒っているなど、自分の感情をことばで表すことができる			○
	しりとりあそびができる				みんなの前で歌ったり、踊ったりすることができる			○
5:0	反対語がわかり使うことができる			○	自発的に友だちに「ごめんなさい」を言うことができる			○
	右、左がわかる			○	知らない大人にあいさつしたり、簡単な質問に答えたりすることができる			○
4:6	受身文を理解して話すことができる(犬にかまれた)など			○	人のものを使うとき、許可を求める態度を示したり、ことばで示したりできる			○
	きのう、きょう、あしたのことばがわかる			○	助けが必要なときに近くにいる人に頼む(トイレに行きたい、水が飲みたい)ことができる			○
4:0	三語文程度の文を真似して言える	○			遊びの中で、順番が分かり、待つことができる			○
	「なに」「どうして」など質問をしてくる			○	遊びの中で適切なことば(貸して、ちょうだい、取って、ありがとうなど)を使うことができる			○
3:6	高い・低いがわかる	○			友だちと順番に物を使うことができる(ブランコなど)			○
	赤、青、黄、緑など複数の色がわかる	○			「こうしていい?」と許可を求めることができる			○
3:0	大きい、小さい、長い、短いがわかる	○			ままごと遊び、ごっこ遊びができる			○
	自分の名前を言うことができる	○			友だちとけんかすると言いつけに来る			○
2:6	紙を切るもの(はさみ)、水を飲むもの(コップ)などの問いに応じる	○			おもちゃなどを貸してほしいとき、相手に伝えることができる			○
	二語文程度の簡単な文(パパ、かいしゃなど)が話せる	○			遊んだおもちゃを箱に片付けるなど、指示されたことができる		○	
2:0								

対象児氏名 (ふくおか たろう)

生年月日 (H 30年 5月 3日) 性別 (男)・女)

チェック年月日 (R5年 10月 1日)

チェック年齢 (5歳 4月)

園名 (〇〇保育園)

記載者 (博多 花子)

対象児との関係 (担任)

年齢	生活と社会性			運動				
	項目	評価			項目	評価		
○		△	×	○		△	×	
7:0	曜日が分かり、一日、一週間の予定がわかる				あやとり、コマ回しなど、細かな作業ができる			
	公共の場所で人に迷惑をかけないで行動することができる				きちんと角のある三角形、正方形、菱形を描くことができる			
6:6	はだかであることを気にして恥ずかしがる				縄跳びができる			
	自分で、出かける準備ができるようになる				ジャングルジムに登ることができる。	○		
6:0	したいこと、欲しい物を我慢するようになる				行進、スキップ、ギャロップなどをリズムに合わせてできる			○
	小さい子のめんどうをみることができる				タオルやぞうきんをしぼることができる			
5:6	信号を見てきちんと道路を渡ることができる			○	人の絵がかける			○
	じゃんけん勝ち負けがわかる			○	菱形と十字形をはみ出さずになぞることができる			○
5:0	2~3人の子どもと協力して一つの山を一緒に作って遊ぶことができる			○	ブランコにのって2~3回こぐことができる			
	他人が嫌がることを人の前ではしない			○	点線で描かれている絵をクレヨンでなぞることができる		○	
4:6	箸を使って食べることができる	○			スキップができる			○
	公共の場でしてはいけないこと(さわがない)などのマナーを意識することができる			○	はさみで紙を線に沿ってきることができる		○	
4:0	鼻をかむことができる		○		おぼんにお皿や茶碗をのせて運ぶことができる	○		
	頼むと食器をかたづけることができる	○			ぼたんをはめることができる	○		
3:6	上着を自分で脱ぐことができる	○			折り紙などにノリを付けてはることができる		○	
	一人でトイレに行くことができる	○			「ヨーイドン」の合図を聞いて、走り出すことができる	○		
3:0	箸やフォークで刺して食べることができる	○			ハサミを使って、紙を切ることができる	○		
	自分で手を洗ってタオルで拭くことができる	○			手すりをもって階段を昇り降りすることができる	○		
2:6	歯をみがくまねなど日常の生活動作を再現できる		○		まねて○を描こうとする	○		
	ほとんどこぼさずに食べられる	○			両足でぴよんぴよんジャンプできる	○		
2:0								

事例

気になる行動を整理するチェックシート ①

保育園、幼稚園職員用

対象児氏名 (ふくおか たろう) 生年月日 (H30年 5月 3日) 性別 (男) ・ 女)
 チェック年月日 (R5 年 10月 1日) チェック年齢 (5歳 4月)
 園 名 (○○保育園) 記載者 (博多 花子)
 対象児との関係 (担任)

1. 多動性 (過活動)

不適応の状態		不適応の例	なし	時々	よくある
(1)	そわそわしている	・座っていて手足を動かす, 身体をクネクネさせる ・髪いじり・爪かみ・指しゃぶり等がある	○		
(2)	離席する	・一斉保育や食事中にすぐに席を離れる ・教室から飛び出してどこかに行ってしまう		○	
(3)	興奮する	・異様にはしゃぐことが多い ・集会の場で走り回る, 高いところによじ登ったり飛び降りたりする	○		
(4)	騒がしい	・遊んでいても騒がしく周りに迷惑をかける ・静かに本読み等ができない ・見知らぬ人にも声をかけて不快感を与える	○		
(5)	休みなく動き回る	・じっとしていない ・予想のつかないことをしてしまう ・目的の場所にいないことが多い	○		
(6)	必要以上のおしゃべり	・遠慮すべきところでも, 自分のペースで不適切なほどに過剰にしゃべる ・保育者の説明の途中や友だちの発言中もしゃべる	○		

2. 衝動性

不適応の状態		不適応の例	なし	時々	よくある
(1)	話を最後まで聞けない	・話が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう 当てられないのに答えを言う ・待てずに自分の聞きたいことをすぐに聞く	○		
(2)	順番を待てない	・列に並んで待てない, いつも一番になりたがり, 反則をしてでも勝とうとする ・ルールを守れず周りとのトラブルが多い	○		
(3)	協調性が乏しい	・友だちの邪魔をする ・友だちの会話やゲームに割り込む ・気に入らないと押したり, たたいたりする			○

3. 不注意

不適応の状態		不適応の例	なし	時々	よくある
(1)	注意を払えない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲をみていない ・ 何度伝えても同じミスを繰り返す ・ 慎重にすべきところで丁寧に行わない 			○
(2)	集中力を持続できない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好きなことには極端に没頭するが、興味のないことには注意集中時間がごく短い 			○
(3)	話を聞いていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話しかけても聞いていない ・ 集団の中で話をきちんと聞けない ・ 違うことをして話を聞いていない 			○
(4)	課題を避ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味のない課題はしない、さける ・ 難しい課題はすぐにあきらめてしない ・ 給食の後片づけ等の決まった課題を嫌がる 			○
(5)	ものをなくす	<ul style="list-style-type: none"> ・ クレヨン・鉛筆・本・傘などをなくす ・ 何をどこに置いたかわからなくなる ・ 探している物が側にあっても目に入らない 			○
(6)	気が散る	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっとした物音でもすぐに気が散る ・ 話し声や騒音等に過剰に敏感である 			○
(7)	物忘れをする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯磨きや手洗い等の毎日の日課でも忘れる ・ 園であったことや直前のことを忘れる 			○

4. 対人コミュニケーション

不適応の状態		なし	時々	よくある
人 社 会 的 関 係 形 成 困 難 さ の 反 応 や か かわ り の 乏 し さ	目と目で合図をする、身振りを使うなど非言語的な行動が少ない			○
	友だちと仲よくしたいという気持ちはあるけれど、友だち関係をうまく築けない			○
	友だちのそばにはいることもあるが、主に一人で遊んでいる			○
	仲のよい友だちがいない、または特定の友だちに固執する			○
	ゲームをするとき、仲間と協力することに考えが及ばない。自分のペースやルールですすめる。			○
	いろいろなことを話すが、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しない。周囲が困惑することも平気で言う。			○
	共感性が乏しく、場の理解が悪い。場にそぐわない行動をする。			○
	その年齢に相応した変化に富んだ自発的なごっこ遊びや社会性のあるものまね遊びができない。			○
こ と ば の 発 達 の 遅 れ	話しことばの遅れがあり、身振りなどでも補おうとしない			○
	ことばを組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る	○		
	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある			○
	独り言、オウム返しなどがあり、言葉のキャッチボールができない			○
	主客が転倒する。			○

5. こだわり、その他

	不適応の状態	なし	時々	よくある
特定の もの に こだ わる こ と	ゲームや順番などでの勝ちや一番へこだわる	○		
	初めて経験することへの抵抗が大きい	○		
	空想の世界（ファンタジー）に遊ぶことがあり、現実との切り替えが難しい場合がある	○		
	特定の分野の知識のみ極端に多い	○		
	とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある			○
	特定の物、遊具、マーク、色などに執着がある（電車、車、昆虫など）	○		
	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある	○		
	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる	○		
	意図的でなく、顔や体を動かすことがある 例：手や指をばたばたさせる	○		
そ の 他 の 特 徴	独特な声で話したり独特な目の使い方をする	○		
	独特な感覚（大きな音、お面を怖がる、砂遊び、水遊びをいやがるなど）	○		
	食事（偏食など）排泄、睡眠などの生活習慣の遅れや乱れ			○
	初めての場所や初めての経験を嫌がる	○		
	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある			○
全般的なこと	社会生活や園生活に不適応が認められる			○

事例

< 連携シート >

R 5 年 12 月 1 日 作成

氏名	ふくおか たろう	性別	<input checked="" type="radio"/> 男・ <input type="radio"/> 女	生年月日	H 30年 5月 3日	5歳 6月
園名	〇〇保育園		記録者(児との関係)	博多 花子 (担任)		
健診からの情報	<p>1歳半児健診：様子をみましょう、と言われた。</p> <p>3歳児健診：言葉の遅れを指摘され、専門機関の受診を進められた。</p> <p>園での健診（園医のコメントを含めて） 発達が同年齢に比べて幼い。落ち着いて診察を受けることができない。</p>					
保護者の認識 受診への気持ち その他	<p>1. よく理解している 2. ある程度理解している <input checked="" type="radio"/>3. あまり理解していない</p> <p>1. 強く希望している <input checked="" type="radio"/>2. ある程度希望している 3. あまり希望していない</p> <p>(家庭では困り感がないが、本児が園生活で落ち着かないなら専門機関医へ相談した方がよいと思っている。)</p>					
幼児発達 チェック	<p>チェック日： 5年 10月 1日（できればチェックシートのコピーを添付してください）</p> <p>気がついたことがあれば： 「言語」は3歳後半の力があるが、「コミュニケーション」は2歳前半の力であった。</p> <p>「生活と社会性」「運動」は4歳前後の力だった。</p>					
気になる行動の チェック	<p>チェック日： 5年 10月 1日（できればチェックシートのコピーを添付してください）</p> <p>気がついたことがあれば： 「多動性」と「衝動性」は不適応が1項目だったが、「不注意」は全ての項目で不適応があった。「対人コミュニケーション」では、人への反応の乏しさとことばの発達の遅れで不適応がほぼ全項目に見られた。</p>					
子どもの実態に ついての自由 記載欄 (課題・対応や 効果など)	<p>言語について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三語文を話し、大人が言った言葉を復唱できるが、「かして」と言葉で要求するなど、友だちとのやりとりはできない。 ・保育者が傍にいるときは、本児と一緒に「ちょうだい」と声をかけて促している。 ・一斉指示では行動できず、じっとしているため、絵カードを用いながら個別に声かけしている。 					
	<p>対人関係・集団生活への適応などについて：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂遊びが好きで30分以上遊ぶ。他児の持っているスコップを黙って取り上げるため、トラブルになり、相手を叩く。 ・砂遊びの時は保育者がそばに付き、他児を叩きそうになったら制止している。制止するとさらに怒ることがあるので、本児が気に入っているスコップは複数準備して、保育者が本児に渡すようにした。 					
	<p>身体面（生活リズム、食事、排せつ、更衣など）について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身辺処理はほぼ自立しているが、よそ見が多く、集中しない。特に、更衣動作は40分くらいかかることもある。ボタンを段違いに留めたり、持ち物の片づけを忘れがち。 ・白ご飯や揚げ物以外は食べない。 					
	<p>運動面について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びではRUN & STOPなど走り回る活動には参加するが、スキップができないためリズム遊び自体は苦手意識が強く、保育室から出ていこうとする。リズム遊びをするときは保育室の傍にマットを敷き、きつくなったらそこで次の活動を待つようにした。スキップなど苦手な活動は正確な動きができなくても参加したことをほめている。 					
	<p>その他（家族環境など）： 両親、本児の3人家族</p>					
かかりつけ医 からの情報	<p>1. なし <input checked="" type="radio"/>2. あり（病医院名：△△小児科クリニック）あれば具体的にご記載ください</p> <p>・かかりつけ医から、風邪で受診の際に言葉の遅れを指摘されていた。</p>					
相談機関 からの情報	<p><input checked="" type="radio"/>1. なし 2. あり（機関名： ）あれば具体的にご記載ください</p>					
センターへの 要望	<p>1. なし <input checked="" type="radio"/>2. あればご記載ください</p> <p>・園でできる支援について具体的に知りたい。</p>					

※記載できるところを埋めるだけで構いません。自由にご記載ください。

※記載欄が不足した場合は別紙に記載して添付してください。

療育センターを受診する保護者の方へ



1. 地域ごとの療育センターご案内

1) 福岡市立心身障がい福祉センター（あいあいセンター）

福岡市中央区長浜 1-2-8 TEL: 092-721-1611
中央区・城南区・博多区・南区在住の方々

2) 福岡市立西部療育センター

福岡市西区内浜 1-5-54 TEL: 092-883-7161
早良区・西区在住の方々

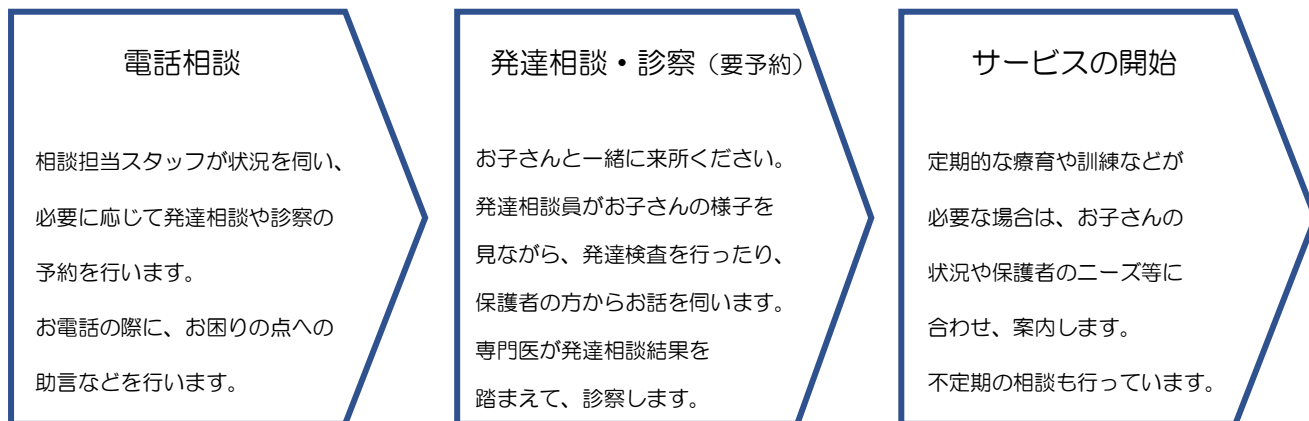
3) 福岡市立東部療育センター

福岡市東区青葉 4-1-1 TEL: 092-410-8234
東区在住の方々

※お電話は平日 9時から 17時まで受け付けております



2. 相談・サービス開始への流れ



※療育センターへの予約は、保護者が行ってください

3. 保護者の方が持参するもの

◎母子手帳、健康保険証、こども医療証

◎初診料（不要の場合あり）

◎他の機関からの紹介状など（手元にある方のみ）

4. 保育園・幼稚園と療育センターとの連携についてのお願い

お子様のこれからの育ちにおいては、保護者の方と園および療育センターとの連携がとても大切になってきます。そこで、園から療育センターへ園におけるお子様の様子についてお知らせなどの情報提供についてご了承いただきますとたいへんありがたく思います。

発達が気になる子どもの理解と適切な支援の導入へ向けて

～保育園・幼稚園の保育者の皆様へ～

発 行 令和5年11月1日

発行者 福岡市早良区百道浜1丁目6番9号

福岡市医師会

会長 平田 泰彦

編 集 福岡市医師会保育園・幼稚園保健部会

印 刷 アロー印刷株式会社

山口県下関市御新町10-3